

材料科学国際宣言東北 2011

-より良き世界の構築へ材料科学からの貢献-

東北大学金属材料研究所は、材料科学分野における世界的な研究の中心の1つとして、長年にわたって活動を続けてきました。そのなかで、東北大学の研究中心・実学尊重・門戸開放の理念の下に、活発な研究活動を展開してきました。その成果として、数々の社会に貢献する材料を世に送り出してきたことは広く知られています。また、長年にわたり国際交流を通じて、材料科学分野における世界との協力を進めて来ました。こうした多くの成功にも関わらず、エネルギー、環境問題、情報、通信、社会基盤、医療などに関する多くの問題が材料科学の課題として残されていることを、関係者は日々認識をし、“努めてやむな”という本多博士の言葉の通り、精力的な活動を続けてきました。それは、材料科学に課された使命の重要性を深く認識する故でした。

去る2011年3月11日に起こった東日本大震災は、東北地方を中心に大きな破壊をもたらし、まだ、社会はその復旧の途上にあります。さらに、震災によってもたらされた福島原子力発電所の事故や電力の不足などは、材料科学における多くの課題の存在を浮かび上がらせました。これらの課題は、新しい問題もあれば、従来からその解決の努力が行われてきた継続的な課題もあります。さらに、重要なことは、今回の災厄と同様な悲劇は、世界のあちこちで、幾度も繰り返されていることです。それらの災厄の影響は、東日本大震災と同様に、発生した国にとどまらず世界全体に深い影響を与えます。このことは、我々の社会には多くの解決すべき問題があり、その解決に材料科学の貢献が求められているということをあらためて強く認識させるものです。

我々、東北大学金属材料研究所および国際的な協力関係にある世界の諸機関と研究者は、悲劇が歴史に刻まれた今年2011年、このような材料科学の責務をあらためて深く共有し、よりよき世界の構築のために努力を傾けること決意し、そのために以下の3つの課題を推進することをここに宣言します。

1. エネルギー、環境保全、安全、情報・通信、社会基盤、医療など、多様な人類の重要課題の解決のために、材料科学はその努力を継続します。
2. 材料科学の共通の課題の解決へ国際的な協力関係を強化し、研究活動を加速します。
3. 材料科学において見いだされた知識と成果が、社会のものであることを認識し、その情報の公開を進めます。市民や社会との交流を深めるために、材料科学の成果が社会の理解と支援のもとに還元されるように努力を行います。

これらの活動は、これまでの災厄の傷を癒し、あらたな災厄を防ぎ、そしてその影響を軽減するために貢献するでしょう。我々は、材料科学におけるこの新しい挑戦の灯火が、この東北の地から世界を照らすことを確信します。

2011年10月11日